

令和2年度 鳥取大学第2回経営協議会 議事要旨

日 時 令和2年9月23日(水) 14:30 ~ 16:15
会議方法 Google Meetによるオンライン会議
出席者 (学外) 江崎, 熊埜御堂, 林田, 松本, 宮崎, 吉岡, 渡辺の各委員
(学内) 中島, 田村, 河田, 細井, 松田, 藪田, 原田の各委員
陪席者 田中監事, 藤井副学長, 安延副学長, 山口副学長,
山根地域学部長, 霜村農学部長

議事要旨の承認

前回(令和2年6月12日開催, 令和2年度第1回)の議事要旨を承認した。

報 告

1. 令和3年度概算要求

資料1に基づき, 令和3年度概算要求額一覧について報告があった。

2. 令和元年度及び令和2年度補正予算

資料2に基づき, 令和元年度補正予算(翌事業年度繰越分)及び令和2年度補正予算の各事業概要の内, 前回報告時に未定となっていた事業について報告があった。

3. 令和元事業年度財務諸表の承認

資料3に基づき, 令和元事業年度財務諸表について, 文部科学大臣の承認を受けた旨の報告があった。

討 議

1. コロナ禍における本学の状況

資料4に基づき, これまでのタスク・フォースによる取組み, 教育・課外活動の状況, 研究活動の状況, 及び附属病院における活動状況の説明があり, 説明後, 各委員との意見交換が行われた。

— 委員からの主な意見 —

◇ オンライン授業に対する学生の評価だけでなく, 授業を担当する教員側の評価について質問があり, 板書を多用する教科ではオンラインへの切り替えに戸惑いがある一方で, 学生が動画を繰り返し視聴できる実学系教科では授業内容に踏み込んだ質問が多く手ごたえを感じているとの反応があり, 教育

内容・授業特性によって評価が異なっているとの回答があった。また、教員のオンラインコンテンツ作成能力にもかなり依存しているため、前期の授業評価が良かった教員から要所を学ぶFD研修会を開催し、教員同士の良い点を参考にし合える体制づくりを行っている旨説明があった。

◇ 本学学生のほとんどがパソコンを用いて授業を受講しているかについて質問があり、本学では1年生の時点でノートパソコンを必携としており、また設定についてもオリエンテーション等で案内しているため、通信環境の不具合もほとんどない体制が整えられているとの回答があった。

◇ 今年度後期における授業等の実施方法として、対面授業における教室の収容率を概ね70%未満とすることに関して、参考となる指針の有無について質問があり、文部科学省が主に小学校・中学校等向けに作成した『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～』（令和2年9月3日改訂版）を根拠としている旨回答があった。

加えて、上記収容率は、対面授業の実施を重視したもの、もしくは密集の回避を重視したものによる設定かについても質問があり、両方を重視したものであるとの回答があった。

また、対面授業実施の判断については、収容率よりも新型コロナウイルスの感染状況及び対面による教育効果を重視するが、特に対面による効果が大きい実験・実習や語学系の授業を対面で実施することを基準とした場合、時間割が組めない技術的な問題もあるため、全体的に勘案し、学生が十分な教育が受けられることを前提に、より良い方向となるよう、文部科学省の指針も踏まえながら収容能力の許す限り対面授業を増やしていきたい旨、説明があった。

なお、再度新型コロナウイルスの感染が拡大する状況によってはオンライン形式に戻すことも念頭に置いている旨、併せて説明があった。

◇ 授業方法において、オンライン方式にも良さがある一方、対面方式の比率が低い若しくは行わない場合、今後全面的に対面授業へ切り替わり、大学キャンパスへ登校することとなった際に不適応を起こす学生が生じる可能性があること、また、1年生については、今が愛着形成の時期であることから、対面によるコミュニケーションによってメンタルヘルスケアを含めたキャンパスライフを実践することが好ましい旨の発言があった。

なお、1年生に対しては、前期より各学部において個別面談等が行われていること、健康診断において医師による直接の面談も行われており、メンタルヘルスに関しては例年と比較しても今のところ大きな影響はないとの結果であったこと、さらには、登校に対する不適応学生が出た場合には注視して個別対応していきたい旨の回答があった。

◇ 学生による授業アンケート結果について、オンライン方式に肯定的な回答の中には、元々対面が苦手なオンライン方式に親和性の高い学生の回答が多く反映されているため、必ずしもオンライン方式が有効であるとはいえないとの見方もでき、そのような学生の心の豊かさやコミュニケーション技能を対面によって高めるうえでも、オンライン方式の比率が高い状態は心配である旨の意見があった。

また、鳥取県は特に新型コロナウイルス感染症の発症率や地域内蔓延の危険性から見て感染リスクが低いことから、対面授業への切り替えに対して積極的に考慮することを希望する旨の意見があった。

◇ 新型コロナウイルスについては、完全な収束は見込めず長期化が予想されるが、附属病院において新型コロナウイルス対応のために縮小した医療部分の早い回復を地域医療の立場から要望する旨の発言があった。

また、そのための附属病院の取組みについて質問があり、大学病院として求められている役割を果たすとともに、地域の周辺病院との連携を図り、それぞれが担える役割を果たすことで、地域医療全体として縮小した医療部分の回復に努めたい旨回答があった。

◇ 本学における授業料の影響による今年度の退学者・休学者数について質問があり、現時点では例年と変わらないが、今後発生してくる可能性もあるため、その場合は何らかの救済措置を検討したい旨回答があった。

また、就職活動への影響についても質問があり、オンライン面接へのサポートに尽力したことにより、今年度は内定等に影響は受けていないが、来年度以降の影響は現時点では予測できない旨回答があった。

◇ 来年度以降の入学者確保に向けた本学の取組みについて質問があり、オンラインでのオープンキャンパスの実施、鳥取県の新型コロナウイルス感染症に対する安全性を含めて高校に対しPRを行っている等、入試広報に努めている旨回答があった。

また、オープンキャンパスの参加者数については、オンラインでの開催であったが例年どおりであったこと、総合型選抜への出願状況も昨年とほぼ同数であり、一次選考は書類審査のみとしていたが、二次選考は面接等を対面にて実施予定である旨、併せて説明があった。

その他

◇ 資料5に基づき、最近の地域貢献の取組みについて説明があった。

◇ 資料6に基づき、令和2年度第3回目を11月16日開催予定である旨説明があった。